

試験日 : 2025 年 11 月 9 日 (日)
入試種別 : 3 年次編入学・転入学試験
学部・研究科 : 経済学部
科目名 : 専門科目 (経済学)

解答又は解答例

問題 1

(1) この消費者が第 1 財の消費量を 1 単位増加させるとき、第 2 財を 3 単位支払うことで元の効用水準が維持できるということ。

(2) 最適消費においては、相対価格 (第 1 財の価格 / 第 2 財の価格) と第 1 財の第 2 財に対する限界代替率が等しくなっている。従って

$$\text{第 1 財の価格} / 2 = 3$$

より、第 1 財の価格は 6 であると分かる。

(作図のポイント) 横軸に第 1 財の消費量を、縦軸に第 2 財の消費量をとった平面を考える。予算線は横軸との切片が $I/6$ 、縦軸との切片が $I/2$ 、傾きが -3 の直線となる。この予算線と接するような無差別曲線を描き、接点が最適消費を示す点であると明示されていること。

(3) (ポイント) 以下のような内容が説明されていること。

第 1 財の価格が上昇したとき予算線の横軸との切片の値が小さくなり、傾きが大きくなる。元の最適消費点を E_0 、新しい最適消費点 (新しい予算線と無差別曲線が接する点) を E_1 としたとき、最適消費の変化 ($E_0 \rightarrow E_1$) は以下の 2 つに分解して考えることができる。

- ・代替効果: 第 1 財が第 2 財に対して相対的に高くなったことで、消費者が第 1 財の消費量を減らし、第 2 財の消費量を増やそうとする効果。図では、元の最適消費における無差別曲線上で、傾きが元の相対価格と等しい点 (E_0) から新しい相対価格と等しい点 (E_2 とする) への変化として描かれる。

- ・所得効果: 第 1 財の価格が上昇したことで、この消費者の所得が実質的に減少したことになる。この実質的な所得減少に対して消費量を調整しようとする効果。図では、点 $E_2 \rightarrow E_1$ への変化 (所得が減少する方向に予算線が平行移動することに対する最適消費の変化) として描かれる。

問題 2

(1) (ポイント) 以下のような内容が説明されていること。

政府支出の増加（有効需要の増加）は GDP（所得）を増加させ、その所得の増加が消費の増加（さらなる有効需要の増加）をもたらすため、最終的に GDP（所得）の増加分は政府支出の増加分を上回ることになる。これを乗数効果という。

(2) (ポイント) 以下のような内容が図を用いて説明されていること。

横軸に所得、縦軸に金利をとった平面において、IS 曲線は右下がりのグラフ、LM 曲線は右上がりのグラフとして描かれ、2 つの交点で均衡 GDP と均衡金利が決定する。政府支出の増加は IS 曲線を右にシフトさせ、均衡 GDP が増加し、均衡金利が上昇する。

IS 曲線のシフト幅は金利が一定の場合の乗数効果の大きさに対応しており、IS-LM 分析での均衡 GDP の増加は乗数効果よりも小さくなることが図から分かる。これは、政府支出の増加に起因する金利の上昇が設備投資を減少させるクラウディング・アウト効果により、有効需要の増加が抑えられるためである。

(3) (ポイント) 以下のような内容が図を用いて説明されていること。

問(2)の IS-LM 分析の図において、金融緩和は LM 曲線を右にシフトさせ、均衡 GDP は増加し、均衡金利は低下する。